

2017年  
7月号

# カトリック笹丘教会 教会 ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1  
☎761-4504 F761-4524  
広報委員会

福岡教区今年度の目標・・・「いつくしみから踏み出す第一歩」 No. 0059  
小教区今年度のテーマ・・・「やってみよう 私にできることを」

## ノアの洪水と神様の約束



主任司祭 遠山満

この教会ニュースを書いております、今日現在（7月6日）、ここ数日断続的に降り続けている雨の為、九州北部で大洪水が発生しております。テレビで放映されるニュースを見ますと、避難指示が出されている地域は、いずれも私達にとって馴染みのある地域です。私が、この災害に気づいたのは、昨日、聖体礼拝の前に、被害の一番大きな地域であります朝倉市の信者さんから、祈りを頼まれたことを通してでした。もし、その知らせを頂いていなかったならば、私はまだ悠長にしていたのかもしれませんが。このような大雨の時、私達は、一体どのように祈れば良いのでしょうか。

今回、この洪水が起こった時、私はノアの時の洪水のことを思い出しました。聖書には、洪水が始まる前の神様の心情が次のように記されています。「主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計らっているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた」。そして、最終的に、洪水によって地上から被造物を拭い去ろうと決心されます。この時、箱舟に乗って救われたのは、ノアとその家族、そして一部の動物だけでした。洪水の後、ノアが祭壇を築き、生贄を捧げた時、主なる神様は次のように言われています。「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼い時から悪いのだ。私は、この度したように生き物をことごとく打つことは、二度とすまい」。また次のようにも言われています。「私があなた達と契約を立てたならば、二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない」。「水が洪水となって、肉なるものを全て滅ぼすことは決してない」。

私達は、ノアの時の生贄とは異なりますが、もっと立派な生贄があります。ミサの中で捧げる、イエス様の御体と御血です。この生贄を捧げながら、神様に祈りましょう。主よ、どうか、ノアの時に語られた御言葉を思い出して下さい。確かに私達は幼い時から、心の中で悪いことを考えております。それにも拘らず、あなたは、洪水によって、肉なるものを二度と滅ぼさないと約束してくださいました。その約束を思い出して、私達を憐れみ、この天災から私達を救って下さい。

## カトリック笹丘教会 拡大信者会議事録

開催日時：2017年7月2日（日）11:45～13:00

開催場所：信徒会館

司会：川原

書記：牧山



† 始めの祈り—主の祈り

### 1. 今年度小教区目標の具体的取り組みについて

目標は「やってみよう わたしに できることを」に決定。福岡教区としては、

- (1) 青少年への信仰の伝達
- (2) 教会を離れている方々への配慮

に力を注ぎたいということなので、この二つの課題について、各自が考える具体的取り組みを、参加者全員に付箋紙に書き出してもらい、集まった意見を似通ったものごとに分類して紹介した。今後役員会で検討し、集まった意見の中から具体的取り組みを決めていくこととし、参加者の了解を得た。

#### 【話し合いの中で出された意見】

- ・青年たちの活動の実態が見えない。
- ・笹丘の青年はよく活動している。
- ・教会を離れている理由によってアプローチの仕方が違ってくる。
- ・こちらから連絡をすることで、気に掛けてもらっていると思えるのではないか。
- ・最近見かけない人には連絡するようにしている。
- ・もしかしたら自分の言動が躓きとなって教会から離れるようになった人もいないのかと反省することも必要ではないか。
- ・神様に心が向いていないから離れていくのだから、自分のせいではないかと考える必要はないと思う。
- ・教会を離れる理由は、人間関係を含め様々あることを忘れてはいけないと思う。
- ・レジオの役割として活動してきたが、教会を離れる理由として、忙しい、何となく、人間関係で躓いた、交通手段がないといったことが挙げられる。
- ・クリスマスや復活祭の案内は出した方がいい。
- ・教会を離れても、必ずまた戻ってくるという楽観的な考えをもって温かく迎えたい。

† 終わりの祈り—アヴェ・マリアの祈り

## 2017 笹丘小教区目標 「やってみよう わたしに できることを」

7月2日に開かれた拡大信者会で出された 想い・アイデアを紹介します。

### 1. 青少年への信仰の伝達

#### SNSの活用

- LINEを利用して友達になる
- ホームページを活用する
- ミサをwebにupする
- Facebook、LINEで主日の福音の要点を伝える
- SNSで若者の輪を作り、そこからアクションを起こす

#### 教会行事の 企画・運営

- 行事を若者に任せる
- 若者向けのイベントを増やす

#### 聖書や教会のことに 触れる機会を増やす

- 高校、大学になると難しくなるので、中学生までに聖書にふれる機会を作る
- 参加は難しくても、関心を失わないように、家族で教会のことや、行事などを伝える
- 日曜学校を充実させる

#### 親の姿、生き方を みせる

- 自分の子供だけでも教会に来るよう努力する
- 親の姿を見せ、後は子どもの自己判断に任せる。
- いつかは戻ってくることを祈る

#### 若者たちの名簿を 作る

- クリスマスミサに誘う
- 行事の準備に動員をかける
- おやじの会に若者を招待する

#### その他・いろいろ

- 教会に来ている若者に積極的に声かけをする
- 聖句を書いたカードを配る
- 青少年で聖歌隊を結成する
- 家庭祭壇などで信者の家庭の雰囲気をつくる

## 2. 教会を離れている方々への配慮

### 想い、祈る

- ・ミサの共同祈願で離れている方々のために祈る

### 便りと訪問

- ・聖書と典礼、お知らせを月ごとに送る
- ・教会ニュースの発送
- ・イースターカード、クリスマスカードを送る
- ・近況伺いの手紙を書く
- ・神父様による家庭訪問
- ・電話でコミュニケーションがとれたら訪問する

### お誘い

- ・復活祭、クリスマスなど大きなお祝い日のミサに誘う
- ・バザー、手芸の会に誘う
- ・気楽に参加できる催しを企画する

### 声かけ

- ・久しぶりに来られた方に積極的に声をかける
- ・久しぶりに来られた方が声をかけやすいように名札をつける

### 対象者の調査・名簿の作成

- ・教会を離れている方の理由、原因の調査から始めてみたら。
- ・各自でお祈りのために該当者の名簿の共有
- ・掃除当番の時、同じ班の方の様子を話し合う

### その他・いろいろ

- ・それぞれ事情があるのだから積極的な働きかけはしないほうがいい

## 信仰のルーツ コーナー

私は結婚後に洗礼を受けました。主人の家族がカトリックであったからです。それまでは仏教徒でしたので、キリスト教の教えをほとんど知らない私が果たして信者になれるのかと少し不安に感じていました。

その後カトリックのことを徐々に勉強していくうちに「自分の中の神様が変わっただけかな」と思い、正直なところあまり深く考えていませんでした。ただ主人の両親と祖母を見ていて自然と教会に足を運ぶようになりました。人は毎朝顔を洗い、歯を磨く。その習慣と同じで毎週日曜日には教会に行く。私なりに信仰をそのように理解しています。家族でひとつの宗教を信じるということは神様からの大きなお恵みです。しかし、大きなお恵みであるとわかってはいるものの、私の信仰は海の波のようなところがあり、押したり引いたりを繰り返す日々です。

信者となって短い期間であります、挫けそうになることが何度かありました。そんな時の私の心の支えは家族です。ここでの家族は肉親と、笹丘教会の皆さまです。この大きな家族の一員としてこれから先も信仰を守っていきたいと思っています。

(匿名希望)

